マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁学校教育局高校教育課
［令和４年度第２号］　R5.1.13発行

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」（北海道静内農業高等学校）～

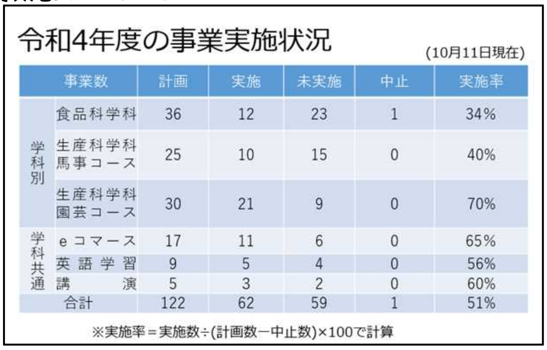
令和4年度 第2回運営委員会を開催

10月11日(火)、令和4年度第2回運営委員会をオンラインで開催しました。委員会では、桑名副校長(マイスター・ハイスクールCEO)から、今年度の中間事業報告や教職員に対して実施したアンケート調査の結果について説明が行われ、運営委員から指導・助言をいただきました。

桑名副校長（マイスター・ハイスクールCEO）からの中間事業報告

＜今年度の事業実施状況について＞

今年度は、122の事業を計画しています。一部新型コロナウイルス感染症の影響により、中止になった事業があるものの、今後もオンラインの活用など、工夫しながら事業を進めていく予定です。


令和4年度の事業実施状況　(10月11日現在)

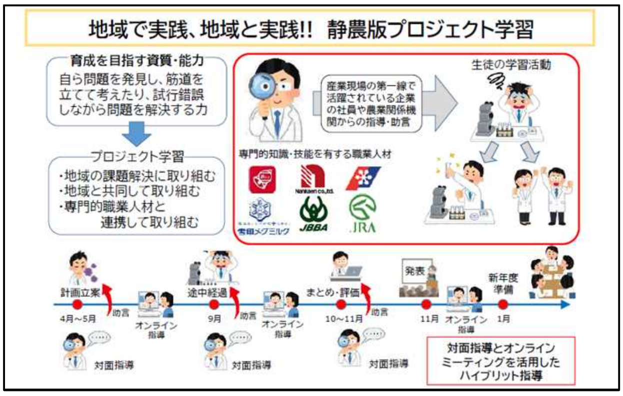
	事業数	計画	実施	未実施	中止	実施率
学科別	食品科学科	36	12	23	1	34%
学科別	生産科学科 馬事コース	25	10	15	0	40%
学科別	生産科学科 園芸コース	30	21	9	0	70%
学科共通	eコマース	17	11	6	0	65%
学科共通	英語学習	9	5	4	0	56%
学科共通	講演	5	3	2	0	60%
	合計	122	62	59	1	51%

※実施率＝実施数÷(計画数－中止数)×100で計算

＜特徴的な取組１＞プロジェクト学習の充実

科目「課題研究」等で行っているプロジェクト学習では、全ての班が企業等と連携し、「計画」、「中間」、「まとめ」の年3回、連携先から指導・助言を受け、地域課題の解決に向けた取組を進めています。

学科（コース）	連携企業・団体
食品科学科	南華園、ベル食品、雪印メグミルク
生産科学科（馬事コース）	JRA日高育成牧場、JBBA静内種馬場、北里大学
生産科学科（園芸コース）	北海道立総合研究機構（中央農業試験場、花・野菜・技術センター）、日高農業改良普及センター

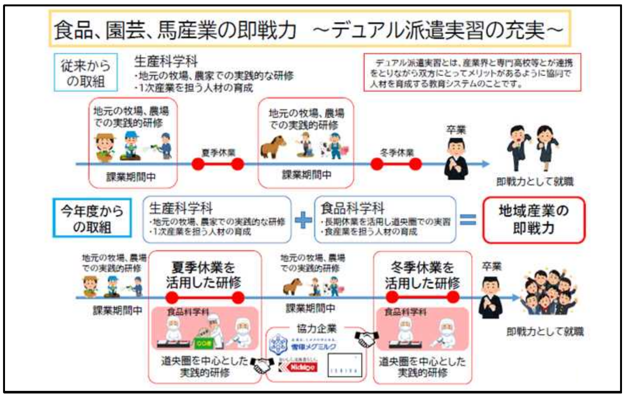


＜特徴的な取組２＞デュアル派遣実習の充実

食品科学科の学校設定科目「デュアル派遣実習」では、夏季休業期間中の実習を計画し、4社で実施しました。

受入先	石屋製菓、雪印メグミルク、日糧製パン、テイエイ

☆生徒の感想☆
- 食品製造の実習にて、何となく行っていた白衣の埃除去や手指の消毒の必要性を改めて実感することができました。
- 初めて、プロの削蹄師の仕事を見て、１頭にかける時間が短く、素早い作業に衝撃を受けました。



＜特徴的な取組３＞フランスからの留学生受入

英語教育充実のため、６月27日から7月3日の1週間、フランスからの留学生2名を受け入れ、数学や馬学、学校行事など様々な交流活動を実施しました。

＜特徴的な取組４＞オンラインによる講演事業

スマート農業の学習内容を深めるため、本校、津別町の農家、NTTドコモ東北支社の3か所をオンラインでつないだ講演事業を実施しました。

＜教職員アンケートの結果＞ （令和４年９月実施）

○「マイスター・ハイスクールビジョン」に関して

４・・・十分取り組まれている（成果が十分上がっている）
３・・・取り組まれている（成果が上がっている）
２・・・取り組まれているが不十分である（わずかに成果が上がっている）
１・・・取り組まれていない（成果が上がっていない）

項目	取組状況評価平均	達成状況評価平均
高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の推進及び学校設定科目の設定	3.5	3.0
プロジェクト学習を中核とした教科等横断的な地域課題探究型の学習活動の推進	3.0	2.7
デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実	3.3	3.1
地域や小・中学校と連携した教育活動など、異年齢集団による活動の推進	2.8	2.4
オンライン授業や実験施設を利用した高度な実験・実習など大学等との連携・協働	3.2	3.0
農業経営のグローバル化等に対応するためのｅコマースの活用や英語教育の充実	3.3	3.1

○教師自身のものの見方や考え方の変化について

４・・・大いに向上した
３・・・ある程度向上した
２・・・わずかに向上した
１・・・向上していない

項目	評価平均
使命感や責任感・倫理観	2.9
教育的愛情	2.8
総合的人間力	2.7
教職に対する強い情熱・人権意識	2.8
主体的に学び続ける姿勢	3.1
子ども理解力	2.6
教科等や教職に関する専門的な知識・技能	3.0
授業力	2.4
生徒指導・進路指導力	2.5
学級経営力	2.3
新たな教育課題への対応	2.6
学校作りを担う一員としての自覚と協調性	2.7
組織的、協働的な課題対応・解決能力	2.7
地域等との連携・協働力	2.8
人材育成に貢献する力	2.4

運営委員からの指導・助言

○　食品科学科のデュアル派遣実習について、地元で体験できる企業の数が少ない中、夏季休業を活用し、大手企業で連続した日程で実施することができ、内容が深まってよかったと思います。

○　デュアル派遣実習を受け入れた企業に就職が決まった生徒もいるということで、道内の一次産業の若手人材が不足している中、企業側の課題解決にも素晴らしいつながりができたと思います。

○　教職員へのアンケート結果から、先生方が生徒の気持ちの変化や成長を感じていると同時に、先生自身の向上心が高まったと感じていることが分かりました。

○　地元の普及センターが、この事業が終わっても、通常業務として学校と関わっていけるような関係の構築について、相談しておく必要があると思いました。

○　民間企業が外部講師を引き受けることは、社員教育の一貫として考えると、自分の仕事をきちんと説明するよい機会であると考えますので、社会貢献という意味でも、次年度以降も何らかの形で継続できる形を模索していきたいと思います。

○　獣医学部への進学について、卒業時に国家試験に合格することが目標となるため、現在取り組んでいる数学や英語などの学力向上への取組を継続させ、実力をつけて生徒を受験させてほしいと思います。

○　マスコミに取材された様子が、SNSなどで閲覧できたり、拡散されたりすることが、生徒のモチベーションの向上につながっていると感じますので、学校として様々な取組が効果的に行われていると思いました。

○　生徒自身の３年の変化などをアンケート調査することで、事業後につながる何かきっかけが見えるのではないかと感じています。

○　子どもの話をしてくれる先生が多く、温かい先生が多いという印象です。本校を卒業した生徒たちは、先生との思い出がたくさんあると思いますし、関わったことで認められたという気持ちをもっている生徒が多いのではないかと思います。

○　本事業を通じて、生徒も先生も成長していると感じています。就農や就労がしやすい環境をつくっていくのは、私たちの仕事だと考えています。

○　先生方のアンケートからは、事業を進めるうちに、生徒たちが変化に柔軟に対応し、自主的に行動することが増えてきているように思います。こうした生徒の動きを先生方が共有することで、より充実した取組につながると思います。

中間成果発表会に参加しました

11月７日（月）、港区立産業振興センター（東京都）で、中間成果発表会が行われました。

指定を受けた15校（令和３年度12校、令和４年度３校）が、これまでの取組内容や今後の課題について発表し、企画評価委員から講評をいただきました。

また、発表会終了後は、参加者がテーマ毎に分かれて協議や意見交換を行い、本事業についての理解を深めました。なお、参加校の発表資料は、文部科学省のHPに掲載されています。(R5.1.13現在)
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/shinko/1421853_00007.htm)

＜企画評価委員による講評＞

○　具体的でわかりやすい発表でした。最終的な出口が、就職・就農につながり、企業とのミスマッチが起こらないような形で、これからも取組を継続させていってほしいと思います。

○　マイスター・ハイスクールCEOが、副校長として常勤でおられるというのは、他校と比べて、コミットされている印象を受けました。